

「鴨の水搔き」

朝夕めっきり涼しくなり空気がおいしい季節となりました。皆様には益々ご清栄のこととお慶びを申し上げます。「竜門園かわら版」Vol. 18が昨年3月にご送付申し上げてから、忙しさに紛れ久しくお届け出来ませんでした。“忙中閑有り”の精神を見失っていた事、恥ずかしい思いでVol. 19を綴っています。ご笑読頂ければ幸いです。

“鴨の水搔き”という諺があります。水面の上で気楽そうに浮かんでいる鴨も水面下では水搔きを絶えず動かしている、人知れない気苦労がある事の例えでしょう。水面の鴨の静姿と水面下の足の動きのギャップの大きさが何故かユニークなのですが、そこには深いメッセージがある様に思います。見た目だけで判断する事なけれ、その奥を知るべしという日本人特有の美意識なのでしょう。

私と同業者の友人Wさんの話なのですが、私がいつも“忙しいでしょう？”と聞くと決まって“暇で困っている”と答えが返ってくるのです。事実、日中は直接的な仕事はしないでボランティア的な事や錦鯉や熊と遊んでいる様子で、本当に暇なんだなあとお見うけしていたのですが、ある日の早朝、夜の明けきらぬ時間にひとり自分でトラックを運転し、重機を夢中で操っている彼をみました。彼は一日に必要なだけの仕事を、朝に殆どやってしまい、日中は間接的な事柄に時間をさき、昼行燈の様に“暇してる”と言っていたのでした。人の数倍の仕事をし、内容の濃い一日を過ごしているという。なんとも尊敬に値する行いで、かくありたいものと強く思いました。そういった言い方の出来る鴨もいるもですが、私の場合の鴨というと私の素行の悪さが見事にラップしています。それは、見た目平然と落ち着きはらっているようにみえるのですが、内面は忙しくあれもしなければ、これも残さなければと焦っている自分、金も無いのに見栄を張って見せたり、怖がり屋のくせに強がって見せたりとかの見せ掛けの自分と重なりあっている様です。又、見せ掛けの場合でも水搔きだけでは無く、そういった努力も怠っていない事が何故か滑稽な自分を見ている様です。等身大の自分がどこにもない事はつらい事です。俺の”俺”はどこなのでしょうか？俺などは人の見ている所では懸命な振りをしていますが、誰も居らずとも努力を怠る事なけれの根性までは達していない様です。

まだまだ、鴨南蛮そばの様な出汁を出すまでには程遠いようです！

シリーズ1 第十九話

親方の小言



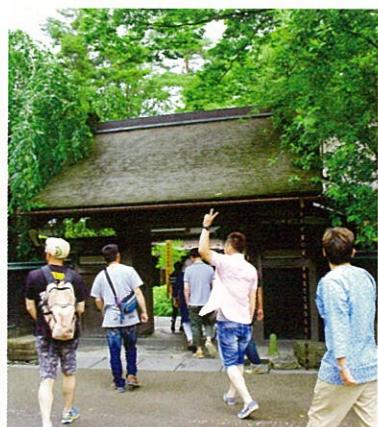
齊藤 千明

Events・Info 【研修旅行 霊石町～秋田方面】

7月26日（土）に一泊二日で「東日本フランク&ガーデン選手権」の参加作品を見学しようと、岩手県靈石町を訪れました。北海道をはじめ普段目にすることのない地域の作品に社員一同興奮気味。作品を見ながら、自分だったらどうするだろうなど口にしながら見学していました。見学後は宿にて少し気の早い納会も兼ね、竜門園お決まりの大宴会となりました。翌日には、秋田角館まで足を伸ばし武家屋敷の庭を見学、昼食は佐藤養助総本店の稻庭うどんを頂きました。このうどん屋さんの庭は平成22年に当社が作庭。4年経ち、深みの増した庭に施主様の思いの深さに感謝。その後バスは一路仙台へ。バスの中では明日からの仕事に向けて一同爆睡でした。



作庭した庭を前に千明社長と顧問



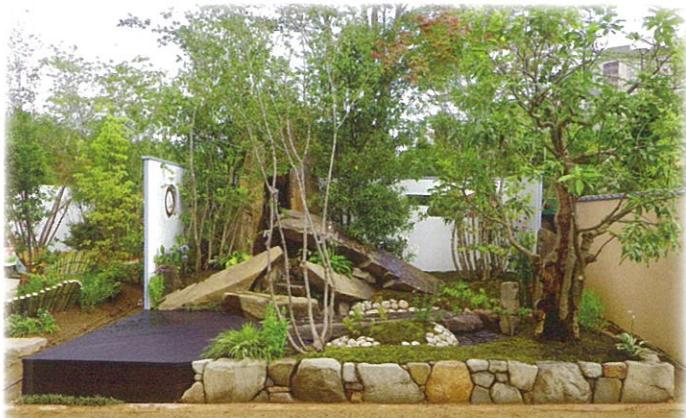
2日目は角館にて一同武家屋敷の見学へ



「東日本ハウス 全日本フラワー&ガーデン選手権」銀賞受賞

去る7月26日～8月10日まで岩手県雫石町のけんじワールド跡地で開催されました。北は北海道、南は広島県と全国の精鋭18社が集い、技を競いました。当社は「来福招龍」と題して、アーティザンガーデン部門へエントリー。職人の技術と粋を集めた庭造りに挑みました。

柱状の大石を立て、豊富な水量の滝を作ったり、斜めに据え年月の流れを表現する。当社独特の高度な石組の発表です。植栽は深山のごとくカシの森にし、シンボルには、100年以上の古木カシを添えました。龍の鱗はスレート瓦です。龍の力強さは表現出来たと思います。金賞は逃したものの、充分に竜門園の造園観は発表出来たものと思っています。



◆ 施工事例紹介

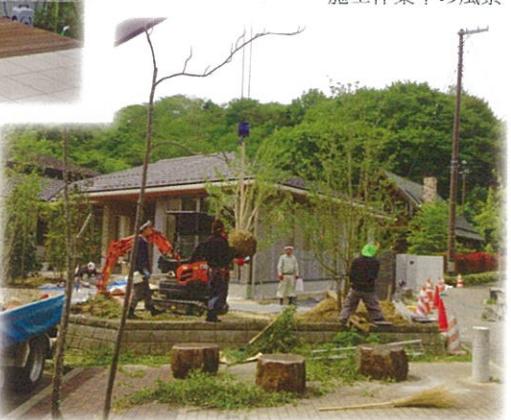
【K様邸 修景工事】

テラスから続くウッドデッキには屋根よりタープをかけてオーブンルームとしました。庭には市松コンクリート平板敷でアクセントをつけるとともに、防草対策を施しました。外水道には使い勝手を考え、二口蛇口のオリジナル立水栓にしました。



【M様邸 外構・植栽工事】

程よい里山を背景にしたM様邸。周囲に溶け込み森の中に佇む環境を目指し、高木は山取り物。下草には、四季それぞれ楽しめる配植。創作張石のアプローチが重厚感を感じさせてくれます。



◆ もみじ狩り

恒例のもみじ狩り慰労会を行いました。仕事の時は真剣に取り組み、休む時の楽しみは大いに羽目を外す。当社のメリハリの強烈な一端です。

まあ～なんともはや…。



施工作業中の風景

発行 株式会社 竜門園

981-3111 宮城県仙台市泉区松森字前沼48-2

Tel. 022-373-3934
Fax. 022-375-9622

Email:info@ryumonen.co.jp
http://www.ryumonen.co.jp/

庭広場 グリーンゲート

981-3117 宮城県仙台市泉区市名坂字油田4-1

Tel & Fax. 022-373-5554

●営業時間／午前10時～午後4時

●定休日／毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌火曜日）

●入場料／無料・専用駐車場有

